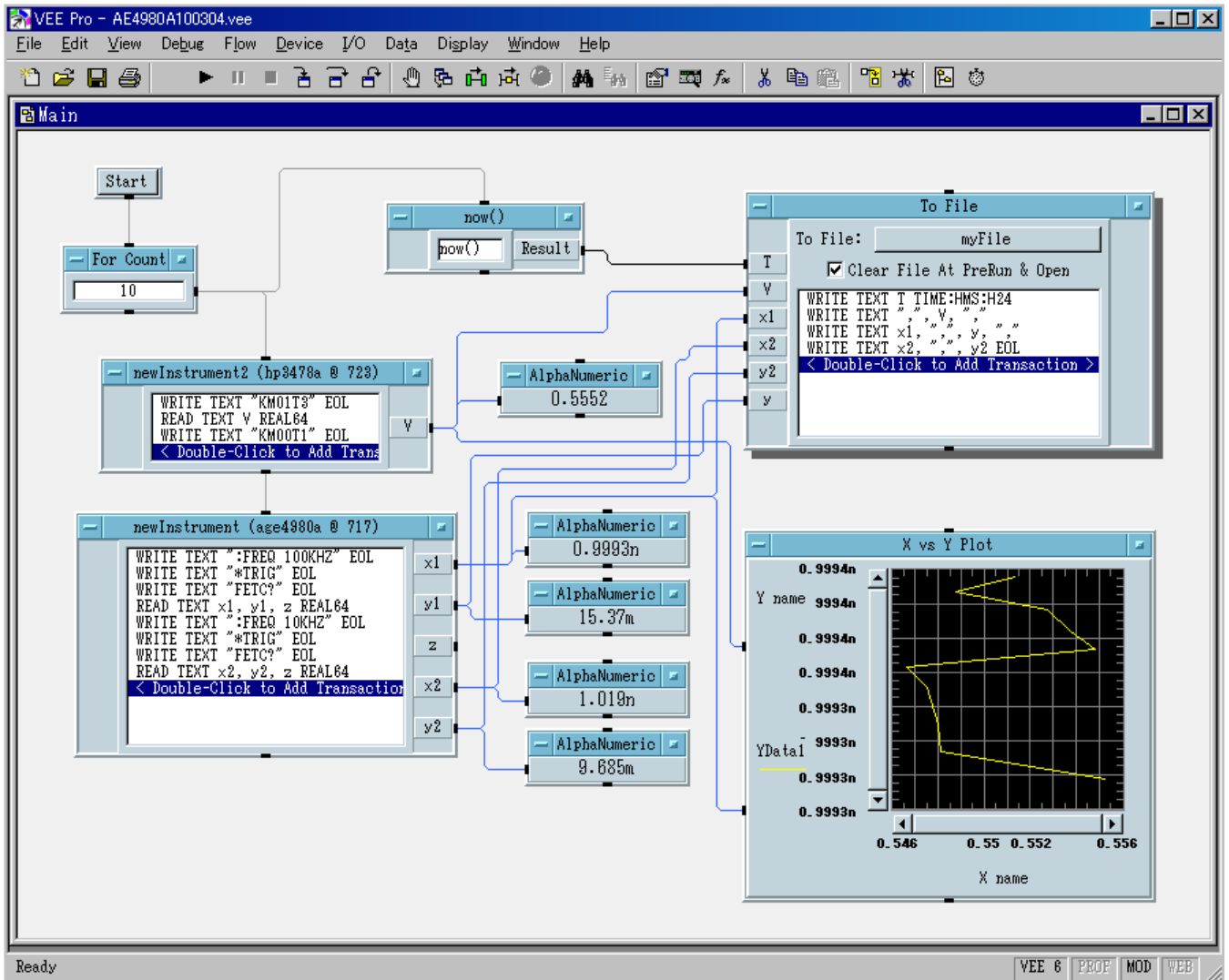


c:\My Documents\AgilentE4980A\AE4980A.vee は下記の通り。

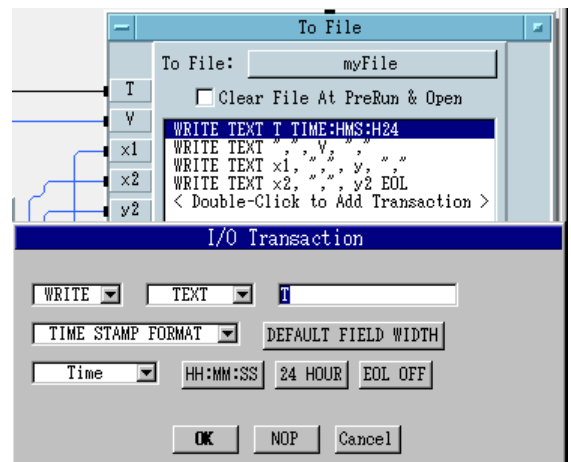
画面内の Start ボタンを押すか、あるいはメニューの▲をクリックすれば、For Count に書き込まれた回数だけ、「時間」「熱電力」「CD(100kHz)」「CD(10kHz)」を測定・ファイル出力する。

出力ファイル名の変更は To File:[myFile]をクリックして変更できる。下例では Clear File にチェックが入っているので、プログラム起動時にファイルはクリアされる。



To File のオブジェクト内の Transaction についての注意

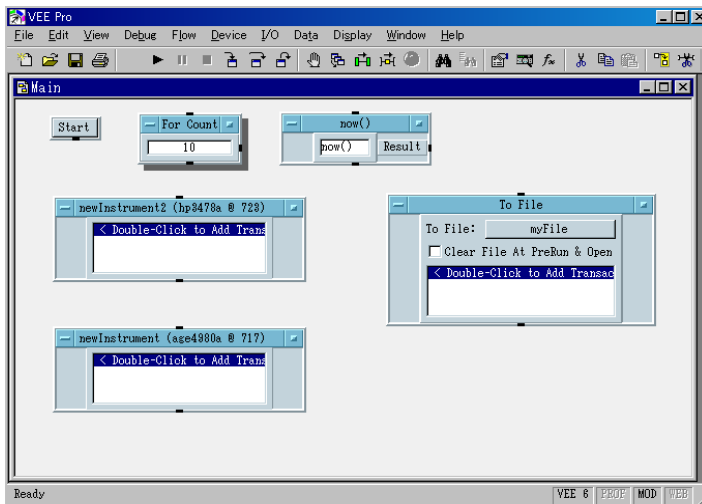
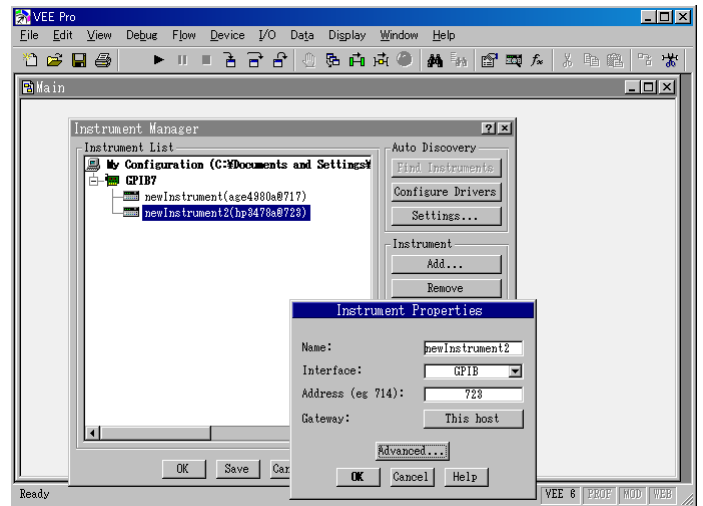
- 1) 変数名として y1 を使うとうまく行かない。バグか？
- 2) 時間変数の認識は変数の種類などを右のように選択すること。"TIME:HMS:H24"はその結果付け加わる指定。



## PC からの制御プログラムの作り方

2010/03/04 H.M.

1. PC (247#27) を WindowsXP で立ち上げる
2. デスクトップの vee のアイコンをクリックして、新規作成画面を起動する (または、既存の vee 画面で、"File" → "New" を選ぶ。
3. LCRmeter や DMM を GPIB で接続し、電源を入れる。
4. メニューの "I/O" → "Instrument Manager" から "Find Instruments" をクリック (GPIB 機器の追加の時は "Add..." をクリック) すると、接続されている機器が探し出され、GPIB アドレスが表示される。

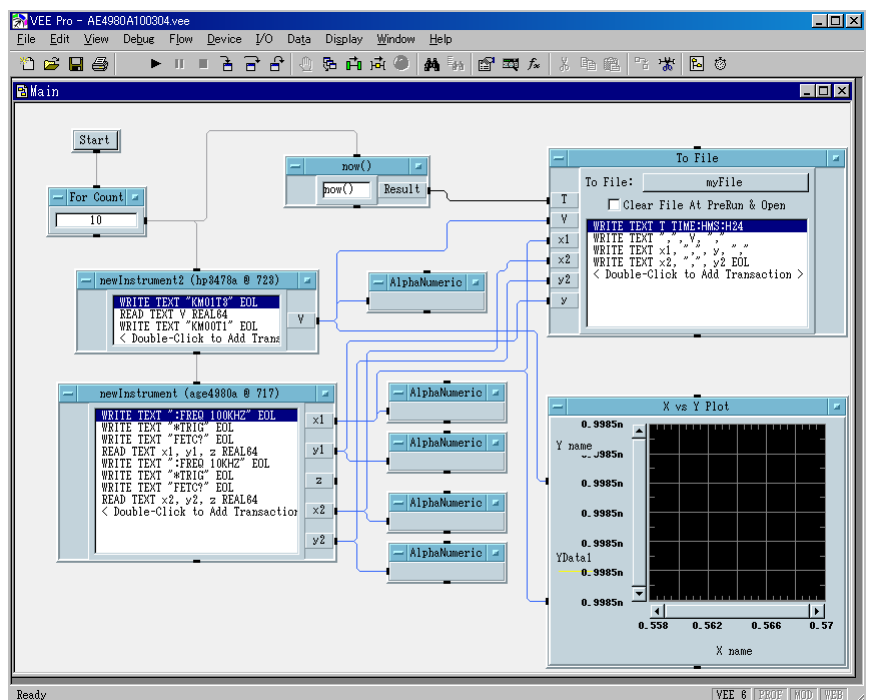


さらに、"\*IDN?"を送信して機器の同定をする。同定できない機種はそれを選んで "Properties" を編集すればよい (Advanced... の中に、optional description がある)

5. 使用する機器を選んで、"Direct I/O" をクリックして、I/O 機器を並べる。さらに、データのファイル出力を行うには、"I/O"メニューから "To" の "File" をクリックする
6. 測定時間を取得するには "Device" → "Function & Object Browser"

→ "Built-in Functions" → "Time & Date" → "now" を選んで Create Formula をクリックする。さらに、メニューの "Flow" → "Repeat" → "For Count" をクリックして、必要なオブジェクトを並べる。

7. I/O のオブジェクト内の命令語を記入すると、入出力の変数端子ができるので、端子間をカーソルで接続する。(To File の変数に y1 を使うと不具合がある: バグ) 測定データをモニター表示させるにはメニューの "Display" から "AlphaNumeric" を選んで、接続する。窓の左側が入力で右側が出力; 上下は流れの制御。"Display" → "X vs Y Plot" をクリックすれば X-Y プロットが出来る。



8. できあがれば、"File" → "Save" で完了。